



たける 武竜です。よろしく!!

昨年の夏真っ盛り、2,778gの男の子が生まれました。名前は主人のひらめきと字画を調べ「武竜」と名づけました。

生まれたばかりのころは生活のリズムが整わず、完全昼夜逆転してしまい、夜中ずっと起きていて、しかも抱っこしてないとグズグズ……。朝方フラフラになって私は武竜を膝の上に乗せたまま大の字になって寝てしまっていることもしばしばありました。

4か月検診のときには、8,135gになり、日々すごいスピードで成長していると実感しています。

双方の初孫ということもあって、どちらに行っても大騒ぎ! 毎日のように遊びに行っているのですが“何十年ぶりの再会”という喜びようで、本当に幸せ者です。

茶屋新田 松本裕美さん 29歳



マイ・カー・デコレーション 花を育てる幸せ!

私は花が大好きで、かなり前から育てているのですが、仕事を辞めたころから花の種類が50種類くらいに増えてきました。

庭が狭いので、発泡スチロール箱・プランター・植木鉢など250個以上ありますので、夏場の水やりは大変ですが、花の魅力を楽しんでいます。

春は日本サクラ草・アツザクラなどの植替えや種まきに挿し木、アマリリスなど球根の植付け、秋の種蒔きしたものの植替え。夏はオキザリス類の植替えなど。秋はヒメ月見草の植替え・種取り・挿し木の鉢上げ・夏に掘り上げておいた球根類の鉢付けと四季を通して楽しみながら増やして知人におすそ分けしています。散歩中にお花を見ては、どう育てようかと考えるのも楽しいものです。



宮前町の高橋美津さん(69歳)

これからもたくさんの四季の花を育てながら、楽しい人生を送りたいと思っています。

KOGA 万華鏡

あらんだ 和蘭風の新年会

”日本ではじめてオランダ地図を執筆した、洋学通の古河藩家老”といえ、賢明なる皆さまのこと、すぐさま鷹見泉石(1785~1858)を思い浮かべてくださるにちがいありません。よせやい、こちら歴史なんぞ興味はないやい! などと仰らないでください。なにしる 泉石の足跡を辿れば、



泉石愛用のデカンターとコップ
参集する銘々が、
舶来の皿・ナイフ・ホーク・デカンターなどを
持ち寄り、オランダ料理を酒の肴に開かれた会合・・・その内

た。主催は、当代きつての蘭学者であった大槻玄沢。すから、おそろくこのときが初めてではなかったのでしょうか。なんやて、現代版「新春の集い」のようなものやないか、というなかれ。じつは、この「オランダ正月」と称された新年会、歴史の教科書に掲載されるほど、重要で有名な集まりなのです。

鷹見泉石と「新年会」

泉石の日記の二項に、次のようなくだりがあります。「一、大槻玄沢方にて例年之通、和蘭新年相当之会集有之ニ付罷越」というもの。文化10年(1813)閏11月11日、泉石29歳のことでした。「オランダ新年」に相当する会、すなわち、西洋暦の元日に該当するこの日、新年会に出席したという内容です。例年のとおりというの

実は、ようやく態をなした洋学の情報交換の場、いわば学会活動のようなものであったといえましよう。

泉石は、ひたすらオランダ料理に舌鼓を打ったのではなく、当時の日本を代表する学者たちと交流し、みずからの知見をさらに磨いていったのでした。(口絵資料は常設展示室にて公開中。なお、テーマ展「雪の殿さま土井利位」は3/2まで)

古河歴史博物館学芸員 永用俊彦